

第1回我孫子市調査書誤記入問題調査対策委員会会議要旨

1 会議の名称：第1回我孫子市調査書誤記入問題調査対策委員会

2 開催日時：平成25年5月8日(水) 9:30～11:30

3 開催場所：教育委員会大会議室

4 出席者：対策委員会委員

蒲田知子・人権擁護委員、大村芳昭・中央学院大学法学部長、猪瀬義明・川村学園女子大学教育学部教授、西村勇・元湖北中学校長、荒井茂男・我孫子市教委元生涯学習部長、中村一治・我孫子高等学校校長、今井正和・我孫子二階堂高等学校校長、千濱孝司・文書情報管理課長、野口恵一・指導課長

5 議題：委嘱式および第1回我孫子市調査書誤記入問題調査対策委員会

6 公開・非公開の別：公開

7 傍聴人：傍聴人15名

8 会議の内容

<委嘱式>

<委員会>

(1) 開会のことば(川村指導課長補佐)

(2) 自己紹介

(3) 委員長、副委員長選任

猪瀬義明川村学園女子大学教育学部教授を委員長、荒井茂男元生涯学習部長を副委員長に選出

(4) 事故の経緯について説明

※事務局、白山中、久寺家中で発生した調査書誤記入の経緯を説明する。

大村：白山中の保護者が開示請求をした経緯について教えて欲しい。

事務局：高校では、入試後に開示請求できる。

大村：合格したのに何か理由があって開示請求されたのではないか。

中村：高校入試については、本人の申し出により調査書を合格・不合格に関わらず開示請求ができることになっている。実際、多くの生徒が開示請求している。

委員長：一般的な傾向として、開示請求が多いということ。

大村：わかった。

千濱：調査書の元になるものは、指導要録となるのかと思っていたが、成績一覧表となっているということでのよいのか。

事務局：毎学期の通知票の評定があり、その評定を年間でトータルにつけた評定にし、指導要録につける。調査書は、1・2年次は指導要録から、3年次は1・2学期の成績をもとに作成する。

委員長：調査書、指導要録等あとで説明する。

西村：白山中1、2、3年と教科担任が替わっているのかを教えて欲しい。

事務局：教科担任については把握していない。

委員長：後で調査することとする。

蒲田：久寺家中の記入漏れと誤記入の生徒は同じか。

事務局：同じではない。

(5)進路指導の流れ・作業ミスの説明について

委員長：他に質問はあるか。事前調査チームの調査した結果を検討していきたい。

その前に、進路指導の流れについて説明を受けたい。

※事務局「中学校での評価・評定算出と進路指導の流れ」の説明をする。委員長から調査チームのメンバーの紹介があり、事務局から4月15日に行った白山中学校の調査内容について説明。

委員長：みなさんはわかりましたか。間違っただけの貼り付けをしたときに確認はしなかったのか。

事務局：しなかったと聞いている。

委員長：確認が必要だった。

※続いて、事務局久寺家中学校の説明。

委員長：今の説明について何かあるか。

西村：昔は、手書きとコンピュータが半分だった。

事務局：今は、コンピュータのサーバーに入れる。

委員長：USBでの不祥事が多かったので、学校でしか使用できないということになった。

委員長：作業途中の誤ったデータを使用してしまったということでのよいのか。

事務局：担当者が覚えていないので、そうとしか思えない。

千濱：成績の作成の仕方のパワーポイントの資料を配付して欲しい。

事務局：了承した。

今井：作業自体は毎年行われるものだが、転記の仕方のマニュアルは作成していないのか。

事務局：学校によってばらばらである。

今井：本校の情報担当が異動するということがあった。情報担当が変わっても引継ぎにミスがでないように、お金をかけてソフトを作成した。同じやり方をやっていくのであれば、ソフトについて先行投資をしていくという形がある。転入生は、最後に入れるようにしていた。間に入れられないという手順を自分はやってしたが、ミスが出そうな場面を想定して、マニュアルを作成したらどうか。

委員長：我孫子二階堂高校のやり方を導入したらどうか。

野口：業者にソフト開発してもらったのか。

今井：開発・作成しただけではうまく稼働しない。点検料がかかるのだが、投資が必要である。

野口：いくら位かかったのか。

今井：次回までに報告する。

委員長：アイデアとしてよい。次回までに調べてきて欲しい。

手順のことが出ていたが参考になる。

今井：調査書を丁寧にこのようにやっても、ミスは出る。点検作業をしていると、個々の担当にミスが出る。

委員長：何度位点検しているのか。

今井：担当、学年主任、教務部長、校長と調べている。それぞれの担当が各点検内容を

決めてやっている。プリントアウトしたものとデータとの確認は必要である。

大 村：名前を先に動かして、後から成績を併せて操作するということをすると、そこでミスが起きやすい。ミスがないようにやるためには、担当の努力があって今までやってきた。ミスがでないようにするためには、名前と成績を一緒に操作することが必要。

西 村：人的なミスが原因である。人間がやることは、絶対ミスが出るという前提が必要。点検に問題。記載事項の漏れがないかという点検と、原本との照合が必要。1、2、3学期の成績と一覧表の照合があるが、学年、教務、教頭、校長とチェックをしてきた。今でも一覧表は印刷して出しているのか。

事務局：出している。

西 村：1、2、3学期の大元のデータと通知票の成績を小さいところから点検をしておくことが必要。先生方の意識として、進路指導を3年の2学期になって意識をもってやり出すことが多いが、1年の最初から意識をもって成績を積み重ねていくことが必要。今井委員が言ったように、画面でもミスがわかるが、プリントしていくとミスも見つかることが多い。操作の手順と点検作業の手順。誰がどこを点検するか。総点検は校長の責任。漢字検定は、誰が確認し、学校内部の組織で行ったのか、点検が必要だと思う。

委員長：コンピュータへの過信があった。個人の成績を生徒全員の成績表へ転記した時の点検を個々に行っていたことに原因がある。

西 村：最後は校長に責任がある。

今 井：点検のミスと誤記入の問題と2つの問題が出てきている。どちらの議論をするのか。

委員長：誤記入の問題について補足説明はあるか。

事務局：漢字検定の原因について。担任に本人から口頭で漢字検定について報告があった。久寺家中では、生徒から言われたことについてメモをとり、記入するという一方でやっている。メモを写すのを忘れたことから出たミス。

千 濱：資格の転記ミスについて。それぞれのやり方がばらばらの状態である。きちんと、どういった資格が対象なのか明らかにする。報告とか、メモなどではミスが出やすい。きちんと様式化して、保護者から出してもらい、検定の写しを出してもらい、点検のチェックの表を作り、確認するというようにしたらどうか。指導要録に書いたら、わかるようなチェック表を作るとよい。第三者の方にも見てもらうようにしたらどうか。

委員長：転記した証拠を残し、チェックをするということか。

西 村：学校でも、英検、漢検の結果は把握できるが、外部で資格を取った場合わかりづらい。保護者も含めた点検をしていく体制作りが必要。部活動については、教務主任がその結果を残していて、成績として点検できた。自分の頃は、漢検をとっていたら、1としてカウントする、関東大会などの部活動の成績が高校に有利になるということが私立入試にあった。私立高校の現状に応じて、生徒会活動に力を入れたい学校、部活動に力を入れたい学校など、それに併せて成績の内容も変わるということもある。そういう結果が、成績に入るという認識があったのか。こういうミス

はあってはならない。

(6) 問題の洗い出しについて

事務局：調査チームの意見をまとめた問題の洗い出し等については、資料に記載している。

委員長：読んで意見を聞きたい。

事務局：白山中における問題の洗い出しの①評定の誤記載②資格等記入漏れについてだが

- ① 評定の誤記載：重要な作業の際に原本のバックアップをとらなかった。データを操作した際に単独で確認作業を行った。クラスの入れ替え作業を年度末の忙しい時期に行った。作業手順を記載したマニュアル、確認手順が分かるマニュアルがない。作業の引継ぎがない。困った時に周囲に相談できなかった。作業の途中経過が依頼者によって確認されていない。市内中学校で統一のシステムがない。パソコンに不慣れな職員には、スキルを高める研修を実施していない。つきあわせる元データの管理がしっかり行われていない。
- ②資格等記入漏れ：資格のデータ管理が不十分である。学校で検定試験が行われている場合はバックアップがあるが、学校外で受けた生徒には認定証のコピーを渡すことを義務づけていない。どの元データとつきあわせるかを決めていない。

委員長：委員から出た意見と重なるが、誤記載をしないためには、調査報告書にある文末表現「～ができない」を「～ができる」という表現に変えていく姿勢が大切である。

野 口：いい意見をもらったが、調べていくと、検定試験については、英検なら英語担当、漢検なら国語担当、成績は担任と言った具合に報告する場が分かれている。英検なら、英語の担当がデータを管理していくべきなのか、その辺の意見を聞きたい。

委員長：複数の担当者がいるという点について。

中 村：調査書は膨大な内容になる。検定試験、部活動、委員会、生徒会活動、出席日数など膨大な内容になっている。疑問点は、中学校では膨大な量の内容をどう扱っているのかということ。高校では、面接をしながらリストを作って確認をしている。生徒会はとか、部活動はとか、多くのデータを生徒指導要録に記載する以前に整理されたリストが手元にあるということが大事。最終段階では、担任から生徒とのやりとりの中で出てきたものの結果を確実に出している。それと、係の担当、英検、漢検の担当者が結果についてもしっかり把握するということが大事。担任と生徒の、各担当の先生と担任の先生との確認が大事。記載漏れについては、この確認しかない。結局、調査書に記入するのは担任なので、このように確認していくしかない。

荒 井：白山中と久寺家中では関わった人はどのくらいいたのか。

事務局：データの操作ミスをしたものは基本的には1人。

荒 井：そのバックアップ体制が大切ではないか。若い先生が相談しづらかったということがあったということも問題。

中 村：ソフトウェアを使うことについて。高校については、教える科目が学校によって違う。学校によって学年で教える科目も違う。そのことで、高校でソフトウェアを使うことが困難になっている。その点、中学校では教える教科は同じなので、共通のソフトウェアを作ることはできるのではないかと思う。

事務局：各学校で統一したソフトウェアを使うということは可能であると思う。

蒲 田：記入漏れがあった場合、英語の先生が各学年に必ずいるわけではないので、各学

年の担当を設けて、提出ポケットを作ったり、学年毎の管理をしたりするとどうか。また、一人の先生に負担がいかないようにしたほうがよい。資料の共通のマニュアルを作ったというのはどういうことか。

委員長：記入のチェックの係を作れないか、白山中のマニュアルについてはという質問。

事務局：基本的には担任が資格等のチェックを行うが、副担がいるので、点検作業を行っている。学年主任、教務、教頭と流れを作っていくことが大事。白山中学校については、誤記載と記入漏れ2つに対応したものである。

野 口：白山中では、昨年度の問題発生を受けて、新年度に共通理解をするマニュアルを作成するという動きが出ているということである。これを参考にしていきたい。

中 村：マニュアル作成の重要性、その中にどのようなプロセスを入れていくかについて、意見をこれから述べていきたい。

委員長：洗い出した内容をまとめたものと今回の意見をまとめたものを資料として作成しておいて欲しい。次の議題だが、「～がなかった（マニュアル等）」現状をどう改善していくかとする。

全 員：異議なし。

委員長：次の会議は、6月の最終週に行いたいと聞いているが日程調整をお願いしたい。進路指導の流れのパワーポイントのコピーも追加資料としてお願いしたい。